

DI (Diffusion Index=景気動向指数) とは各調査項目について、好転企業割合から、悪化企業割合を差し引いた値を示し、景気の現状把握や将来の見通し予測を行う。

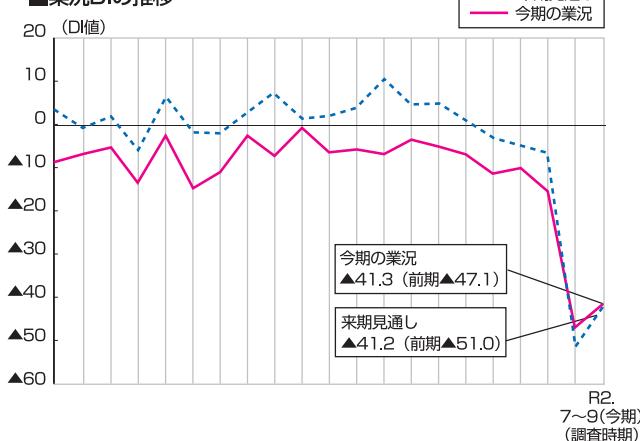
DIがプラスなら……好転、上昇基調
DIがマイナスなら……悪化、下降基調

記号の見方

DI値	-25P以下	-25~-10P未満	-10~10P未満	10~25P未満	25P以上
景況	特に悪化	悪化	横ばい	好転	特に好転
	↓	↓	→	↑	↑



■業況DIの推移



■産業別DI値表

		前期 [2020.4~6] (A)	今期 [2020.7~9] (B)	増減 (B)-(A)	来期見通し [2020.10~12]
業況	全産業平均	▲47.1	▲41.3	5.8	▲41.2 ↓
	製造業	▲40.0	▲66.7	▲26.7	▲64.0 ↓
	建設業	▲36.8	▲28.0	8.8	▲31.8 ↓
	卸売業	▲44.4	▲27.8	16.6	▲25.0 ↓
	小売業	▲62.5	▲54.2	8.3	▲36.4 ↓
	サービス業	▲45.2	▲30.0	15.2	▲41.4 ↓
売上額	全産業平均	▲52.9	▲47.5	5.4	▲39.2 ↓
	製造業	▲40.0	▲68.0	▲28.0	▲56.0 ↓
	建設業	▲52.6	▲41.7	11.0	▲32.0 ↓
	卸売業	▲55.6	▲35.3	20.3	▲35.3 ↓
	小売業	▲61.5	▲70.8	▲9.3	▲39.1 ↓
	サービス業	▲48.4	▲23.3	25.1	▲33.3 ↓
資金繰り	全産業平均	▲41.6	▲21.3	20.3	▲25.2 ↓
	製造業	▲40.0	▲40.0	0.0	▲40.0 ↓
	建設業	▲21.1	▲15.4	5.7	▲20.0 ↓
	卸売業	▲29.4	11.1	40.5	0.0 →
	小売業	▲61.5	▲39.1	22.4	▲34.8 ↓
	サービス業	▲44.8	▲16.7	28.2	▲24.1 ↓
採算	全産業平均	▲52.4	▲41.5	11.0	▲37.0 ↓
	製造業	▲20.0	▲44.0	▲24.0	▲52.0 ↓
	建設業	▲52.6	▲42.3	10.3	▲40.0 ↓
	卸売業	▲50.0	▲27.8	22.2	▲17.7 ↓
	小売業	▲68.0	▲54.2	13.8	▲31.8 ↓
	サービス業	▲51.6	▲36.7	14.9	▲36.7 ↓

今期業況は前期に続き、厳しい状況が続く。来期も依然と厳しい見通し。

【今期(令和2年7~9月期)の景況】

全産業の業況DI値は、▲41.3 (前期比プラス5・8) ポイントで、依然厳しい状況が続く。産業別では、製造業では▲26・7 ポイントで前期より大きく後退した。

【来期(令和2年10~12月期)の見通し】

全産業の来期見通しは、▲41・2 (前期▲41.2) ポイントで、前期と比較すると改善傾向であるが、依然厳しい見通しどうなった。産業別では、製造業では、平成25年4月期以降で最も厳しい見通しとなる▲64・0 ポイントとなり、大きく後退した。

【今期の売上額・資金繰り・採算】

全産業の売上額DI値は、▲47.5 (前期比プラス5・4) ポイントとなり、前期より増加した。しかし、製造業と小売業は後退した。

全産業の資金繰りDI値は、▲21・3 (前期比プラス20・3) ポイントで大幅に改善した。特に卸売業と小売業とサービス業は、大きな改善が見られた。

全産業の採算DI値は、▲41・5 (前期比マイナス11・0) ポイントと回復傾向にあるが、製造業では、前期比マイナス24・0 ポイントとなるなど、厳しい状況が続く。

【回答企業のコメント】

・コロナによる社会全体の景気減。（建設）

・リモート対応、対人から機器による対応に変えるなど、コロナによる業務改善効率化を図る。（卸売）

・コロナの影響で、大きなセールができるなり、集客アップが見込める。（小売）

・売上不振による借入金の増加が懸念。（サービス）

・コロナ感染リスクの減少がない限り、今の厳しさはもう少し続くと覚悟して事業に取り組む。（製造）